

仙台高専広瀬キャンパスにおける 支援の取り組み

1. はじめに
2. 仙台高専広瀬キャンパスについて
3. 支援体制の構築
4. 支援の流れとその実際
5. 支援体制の充実化
6. おわりに



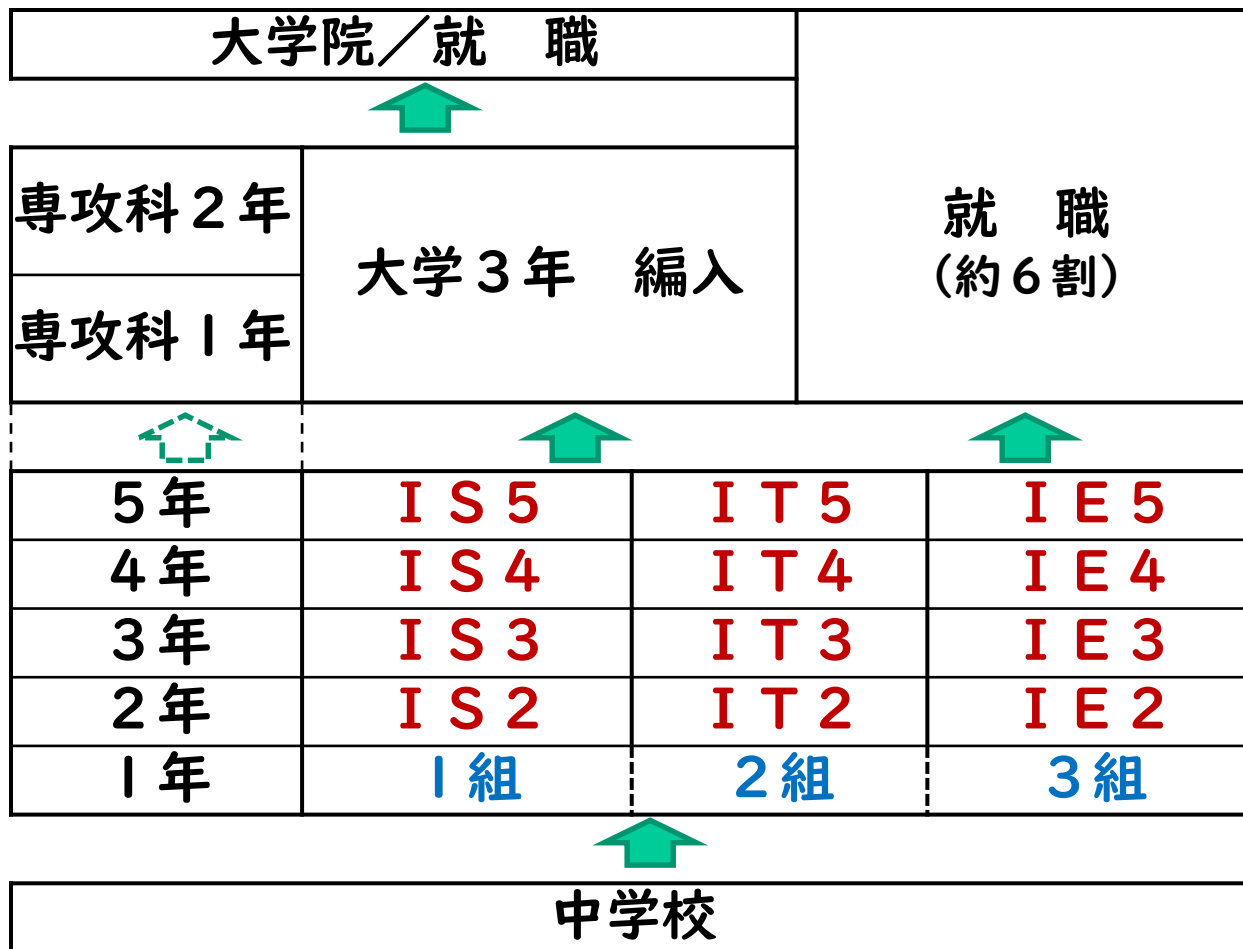
仙台高等専門学校 広瀬キャンパス
学生相談室長 (兼特別支援室副室長)

矢澤 睦 (あつし)

仙台高専広瀬キャンパスについて

- 旧仙台電波高専（2009_[H21]年10月に宮城高専と統合）
- 場所：JR仙山線「愛子駅」徒歩15分
仙台駅から電車で20～30分
- 本科5年間（高校1年～大学2年）、専攻科2年間
学生数 本科：617名（男子524名、女子93名）
専攻科：58名（男子55名、女子3名）
《寮生：99名（男子80名、女子19名）》
※留学生14名（男子12名、女子2名）を含む
- 電子情報系の学科構成←本校の特徴
- 本科は『学級担任制』←高専の特徴

仙台高専(広瀬C)の学年・学級構成



広瀬キャンパス

(総合工学科・I類)

IS：情報システムコース

IT：情報通信コース

IE：知能エレクトロニクス
コース

(名取キャンパスはII類・III類で
4コース構成)

仙台高専(広瀬C)学生相談室

・相談室メンバー

室長、カウンセラー（常勤2名）

副室長、校内相談員（担任・学生担当以外の教員）

看護師、学務課長（事務担当：学生係）

・カウンセラー（名取Cと交互に、平日は誰かいる体制）

常勤（女性・男性） 月曜～金曜 午前 9時～午後5時

非常勤（女性） 木曜 午後 1時～午後5時

・相談員（福祉専門家）非常勤 水曜 午後 1時～午後5時

・教育支援コーディネーター非常勤(3名) 放課後4時間

SSR（スタディー・サポート・ルーム）

・校内相談員：教員若干名

研修会等への参加、相談対応

仙台高専(広瀬C)の学生相談体制 (2022年度版)

学生



個々の性格やニーズに合わせてアプローチできる多様な選択肢を用意

必要に応じて学生相談室長が情報を集約・展開⇒提供する支援を検討

相談体制の強化と相談件数の推移(広瀬C)

~2014年	カウンセラー	非常勤のみ	←件数1000件未満
2015年	カウンセラー	常勤1名・非常勤1名	←件数1000件超
2016年	カウンセラー	常勤2名(男女各1名)	←件数2000件超(2017年)
2018年	カウンセラー	常勤2名・非常勤1名	
2019年	教職員対応カウンセラー	非常勤1名	
2021年	相談員(福祉専門家)	非常勤1名	
2021年	校長特別補佐(学生相談担当)	設置	

支援グループ(チーム)の構成

支援グループ

◎印:コアメンバー

- ◎室長 (教務担当副校長)
- ◎副室長 (学生相談室長)
- ◎カウンセラー

◎学級担任(キーパーソン)

◎学年主任・コース主任等

- 1・2年生: 導入教育主任・学年主任 (一般科目教員中心)
- 3～5年生: 所属コース主任

○教員 (必要に応じて複数名、一般科目、専門科目両方から)

- ・対象学生と接する機会の多い教員
 - ・苦手科目の担当教員
- } 学生相談室長が依頼

学生毎・年度毎に結成

※当該学生在籍中は、支援必要性の有無に関わらずグループ継続

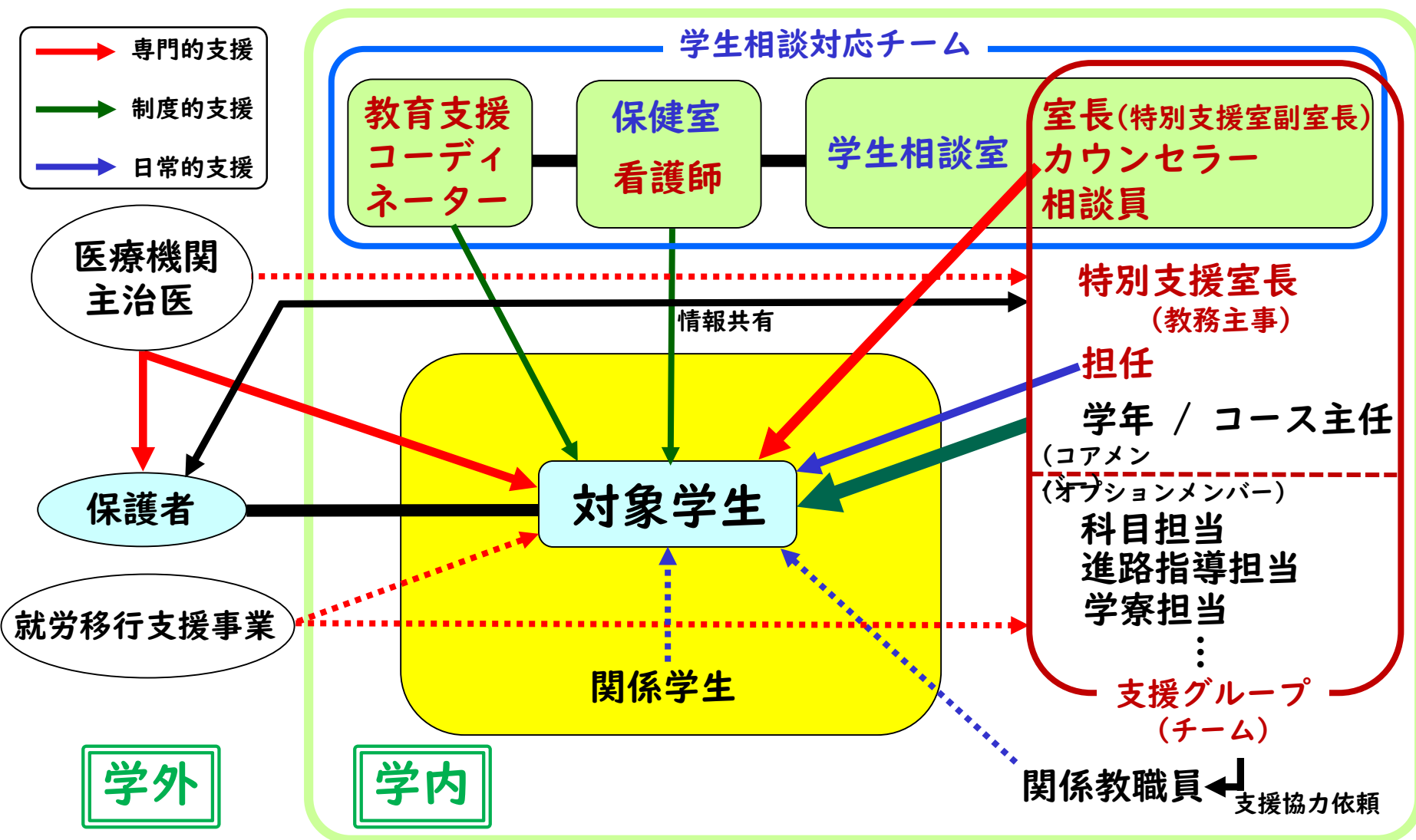
例年5～10グループ結成

支援グループ(チーム)の役割

1. 障害の状況把握
2. 具体的支援の計画と実行
3. 保護者との情報交換と連携
4. 関係教員からの情報収集
5. 科目担当教員への学習支援の要請、および
直接の学習指導
6. 教職員や学級内での理解の増進
7. 支援記録の作成

*担任 ← **バックアップ!** グループ教員

仙台高専(広瀬C)学生支援体制図 (2022年度版)



支援の流れ(対象となる学生の把握と周知)

入学時に把握可能な学生 (医療機関による診断ありなど)

- ・ 中学校からの連絡・情報 (これまで合格後4件。受験前相談2件。)
- ・ 入学者説明会にて声かけ (「気になることがある方はご相談ください。」)
- ・ **保健調査票** (入学手続書類の1つ) に障害に関する記載欄



面談(主に保護者)を経て支援を検討(→**教員会議で周知**)

「すごく特別なことをするというわけではありません。
他の学生よりも少し注意深く見守る、ということです。」

入学後に発達障害が疑われる学生

- ・ 本人にとって大きな問題が生じている場合に対応
- ・ **保護者が納得して希望する場合のみ医療機関での診察を勧める** → 支援対象学生へ (調整不調の場合は「準支援」扱いも)

保健調査票(抜粋)

5. 身体の特長・障がい等について（該当するものに○印をつけてください）
- ・視覚障がい（ ）・聴覚障がい（ ）・肢体不自由（ ）・発達障がい※（ ）
 - ・区別が付きにくい色がある（ ）・区別が付きにくい色があるかどうかわからない（ ）
- 病名・障がい名【 】
- 障がい者手帳の交付 【 ない ・ ある（ 種 級）】
- 補助具等の使用 【 ない ・ ある（用具： ）】
- 授業や日常生活での配慮の必要性【ない ・ ある】 ⇒ 「ある」の方には後日連絡します。
- ※自閉症スペクトラム、学習障がい(LD)、注意欠陥/多動性障がい(ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー症候群など。これらの診断を受けている、及び疑いがある場合も含めます。

平成20年度以降入学時から支援対象とした学生は、保健調査票の記述が対応開始のきっかけ（毎年10件弱程度の記述あり）



支援希望の場合は入学前に来校してもらい、相談室長が面談（面談シート記入と口頭で詳細確認⇒支援対象とするか決定）

※近年は「最初は様子見て・・・」の希望が多い傾向あり

面談シート①

(保護者が記入)

No. 1

学年・クラス	氏名	1. 男, 2. 女	記入	年	月	日
診断名		本人の認識	1.十分理解	2.知ってる	3.知らない	4. (No.2に記載)
診断日	(歳, 小学 中学 年)	知らせてよい 相手と内容				
これまでの様子 就学前						
小学校での状況						
中学校での状況						

面談シート②

現在の状況

(欄が狭いので、*1：などとして次ページにも、出来るだけ具体的に記入して下さい)

- (1) 医療機関 (通院中, 薬, 検査と結果, 医者からの指示, など)
- (2) 得意なこと (一般的に, 学校の科目では, など)
- (3) 苦手なこと (一般的に, 学校の科目では, など)
- (4) 困っていること, 困りそうなこと
- (5) 中学校で, 考慮してもらったこと, 支援の状況
- (6) 本校で, 考慮してほしいこと, 支援してほしいこと
- (7) パニックの状況, 落ち着かせる方法
- (8) これまで, 勉強に関して専門家 (医者, 教師, 相談員など) から受けたアドバイス
- (9) その他, 気をつけること

記載された内容（抜粋）①

- (1) 医療機関（通院中，薬，検査と結果，医者からの指示，など）
 - ・ ○○大学付属病院通院中、××と△△服薬中、眠くなることあり…
 - ・ 小学校の時一度だけ診断、特になければよいと言われてそのまま
- (2) 得意なこと（一般的に，学校の科目では，など）
 - ・ パソコン関連、努力すること、記憶力全般…
 - ・ 数学（多い）、理科、英語、漢字…
- (3) 苦手なこと（一般的に，学校の科目では，など）
 - ・ 自分から働きかけること、適切な言葉づかい、気持ちを言葉で表す、相手の気持ちを思い遣る、身の回りの整理や持ち物の管理…
 - ・ 体育実技（複数）、美術、音楽、技術家庭、作文…
- (4) 困っていること，困りそうなこと
 - ・ 協働作業、対人関係、クラスにとけ込む、集中して話を聞く…
 - ・ 文章にして表すこと、作業や処理が遅い、提出物の提出…
 - ・ 頼まれると断れない、すべて自分で抱え込んでしまう

記載された内容（抜粋）②

(5) 中学校で、考慮してもらったこと、支援の状況

- ・ クラス編成や座席など、友人関係を考慮
- ・ 気にかけてもらうこと、本人の意志を尊重、積極的な声かけ…
- ・ 苦手科目について、細やかな支援や配慮
- ・ スクールカウンセラー、対人関係の練習（SST含む）

(6) 本校で、考慮してほしいこと、支援してほしいこと

- ・ 声かけ、とけ込めるように見守る、折をみて必要ならクラスに説明…
- ・ ほめられると頑張るタイプ、怒鳴ったりキビキビ言う先生は苦手…
- ・ （進度が速いと聞いたので）授業内容や持ち物、提出物の確認
- ・ 場所の移動が苦手なので、迷子にならないように
- ・ カウンセラーに会える体制、（将来に向けて）人との接し方の指導

記載された内容（抜粋）③

(7) パニックの状況，落ち着かせる方法

- ・ 困ったり不安な状況になるとうろろうろする
→声がけして話を聞き問題解決を図る、おまじないがある
- ・ 頭を抱えてうずくまる、頭痛を訴える→別室で休ませる
- ・ 気に入らないとすねる、冗談を本気にする
→時間経過を待つ、そのつど説明する
- ・ 予定外のことを受け入れるのに時間がかかる、文句を言う
→自分でも納得しようとしているので、見守る
- ・ イライラして言葉が乱暴になる、ひどいと物に当たる
→別室など静かな場所でクールダウン

(8) これまで、勉強に関して専門家（医者，教師，相談員など）から受けたアドバイス

- ・ 叱りつけない、自分で気づかせる、努力することを指導
- ・ 素直でまじめなことがいいと思っているので、我慢しすぎることもあり、無理をしすぎないように注意
- ・ 伝えたいことは具体的かつ端的に、後からではなくその場で

教員会議で周知(支援対象とする場合)

- 面談から得た情報を、毎年4月の教員会議で周知
- 口頭にて所属・氏名・診断名・特徴などを公表
- 新規の支援対象学生については詳細に説明
- 継続の支援対象学生については所属等の再確認
(対象学生であることを忘れてしまう…)
- 教員の対応不備による二次障害の発生を防ぐことが最大の目的

周知の成果

日ごろ、以下のような対応は全教員が意識

(してくれているはず…)

- 頭ごなしに強く叱りつけてはいけない
(叱られた印象だけ残り、内容が理解されない)
- 何かできたときはまず褒める
(モチベーションを高めると他も良くなる)
- 予定などは口頭で伝えた後、掲示orメモをとらせる
(どうしていいか解らないと不安になりパニックに)
- 約束は具体的に (「何日の何時に何処に来なさい」)
- ファイルを用意させ、配布物はそれに入れさせる
- 提出物は**できたところまで**持ってこさせる
- 必要な場合は図などで視覚的に説明する
- 成果(or not?) 「○○って対象学生だっけ!?’ などなど

支援の内容（概略）

学習への支援

定期試験後に、「特に成績の悪い科目」の吟味



必要な措置の相談

- ・ 課題の未提出状況を保護者に連絡（家庭の協力）
- ・ 科目担当教員に状況確認、支援協力要請
- ・ 補講の計画、信頼できる上級生のTAをつける、など

学校生活への支援

顕著な発達障害の特性を示す学生

- ・ 生活行動について常に把握 ➡ 保護者との連携
- ・ 級友への説明と協力依頼（これまで2件）

支援の実際（総合的に）①

1. 独特の態度や話し方の学生(主に自閉傾向)

- ・ 動作・行動の特徴→担任・保護者が把握→情報共有
- ・ 周囲にとってストレス→級友の理解が必要
→保護者と相談して、クラスの学生に説明も有

これまで2名だけ。一般的に保護者は「学生には知られたくない」

- ・ 級友とのトラブルは、そのつど関係学生の協力を仰ぐ←概ね協力的
- ・ パニックが落ち着くまで何もできない(しない方がいいらしい…)
- ・ 落ち着いてから理由(何が問題か、何が不安だったか)を聞く
- ・ 保護者との連携が重要→行動の意味を解釈でき、参考になる

支援の実際（総合的に）②

2. 集中できない学生(主にADHD)

- ・気になることへ意識がパッとずれる、興味のある方へすぐ反応する
- ・気持ちは優しい、年齢より幼く感じる、年齢に関係なく友だちになる
- ・からかわれる、悪戯される→相手を特定して注意、席替えなど
- ・約束を忘れるor「忘れた」と言う→成績不振に→学習支援必要
課題未提出：配布物用ファイルを渡す、携帯などにメモをとらせる、
保護者に連絡して確認してもらう
学習指導：つきっきりでやればできるが、教員による対応は困難
→上級生のTAをつけるのが効果的
- ・遊びに流されている学生との区別がつきにくい→特別扱いに見える
- ・得意科目の担当教員は障害を信じない場合あり
（「問題があるとは思えない。他にもっと問題な学生が…。」）
- ・投薬による効果は期待できる(医療機関の指導必要)

支援の実際（総合的に）③

3. 課題等を完成しないと提出できない学生(主にAS)

- ・途中で引っかかると、そこを飛ばしたり後回しにしたりできない
- ・独特のこだわりや世界観を持ち、それを外れることを嫌う、全か無か
- ・考えがまとまらないと話せない(最後までシミュレーションしてから?)
- ・完璧主義、頑張りすぎて体調を崩す、うまくいかず落ち込む、など
→これらの特徴を理解して**辛抱強く対応**（「細切れ課題方式」など）

4. 診断はあるが一見問題なさそうな学生(PDDなど)

- ・小さい頃から訓練、成績も問題なく、小中学校でうまく支援された印象
- ・個性だと思えばOK(慌てふためく傾向、愛想なくぶっきらぼう、など)

5. 診断はないが疑わしい学生(結構いる…)

- ・問題があれば、保護者と相談して支援対象にする場合も

学生支援GPによる支援体制の充実化

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」
(応募・採択)

↓
「発達障害を持つ学生のための特別支援室」事業

①かけ込める場所の確保→SSR(スペシャル・サポート・ルーム)などの整備
↳現在はスタディ・サポート・ルーム

3か所：SSR、女子専用SSR(←当初)、保健室の一部・相談室
[衝立、ソファベッド、テーブル、書籍、ロッカー、机、パソコンなど]

↓
パニック時のクールダウン、教職員・カウンセラーの仕事場、
支援グループの会合、学生や保護者との面談、学習指導など

②教職員の理解促進(啓蒙活動)→書籍の配布、講演・研修・視察の機会

③支援対象学生の対応整理・記録整理→支援手引き・HP作成、データ蓄積

目的：支援の専門家がいなくても継続・維持できる体制の構築

①かけ込める場所の確保＝SSRの設置

スペシャルサポートルーム(SSR)の設置 (+保健室・相談室の整備)

設置の目的

支援対象学生がパニックを起こしたときのクールダウンほか
(現在は対象を限定せず、多目的使用に用途を拡大中：
放課後開放・打合せ・面談・個別指導など)

設置場所

- 1) 教員談話室向かい(2階)
- 2) 教員談話室の階下(1階)、保健室近く(当初は女子専用→相談室2に)

管理

- ・学生相談室長、カウンセラー、看護師、対応教員、学務課職員などが鍵を所持(当初は電子キー)、必要に応じて開錠
- ・緊急時対応のため監視カメラ(現在は取外し)・非常連絡ブザーの設置

SSRの利用目的変遷

2007～「スペシャル・サポート・ルーム(SSR)」として設置

- ・ 支援対象学生がパニックを起こしたときのクールダウンが主目的
(カウンセラーの執務・打合せ・面談・個別指導にも利用、通常未開放)



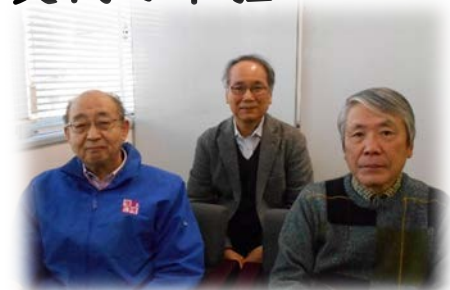
2011～2015「なんでも相談室」の機能（東日本大震災が契機）

- ・ 放課後、相談室教員が交代で常駐し、部屋を開放
- ・ 学生と教職員の交流促進（案外、教職員が多く訪れて憩いの場に…）



2013～現在「スタディ・サポートルーム(SSR)」の機能

- ・ 放課後、教育支援コーディネーター(本校OB教員)が交代で常駐
- ・ 数学、物理、専門科目を中心に、個別学習指導
- ・ 就職や進学 of 模擬面接指導



②教職員の理解促進（啓蒙活動）

書籍の配布、講演・研修・視察の機会の創出

G P 期間中に教員に配布した書籍

のび太・ジャイアン症候群4　－ ADHDとアスペルガー症候群－
（司馬理英子ほか著　主婦の友社）

僕の妻はエイリアン　－ 「高機能自閉症」との不思議な結婚生活－
（泉流星著　新潮社）

高機能自閉症　－ 誕生から就職まで－　（内藤祥子著　ぶどう社）

講演・研修・視察（→謝金・旅費の確保）

- ・ 専門家に依頼した校内 F D 研修会が増加
- ・ 学外の研修会に教職員を派遣する回数が増加
- ・ 先進事例を視察する機会の創出（遠方での調査が可能に）

③ 支援対象学生の対応整理・記録整理

支援手引き・HP作成、データ蓄積

特別支援室「支援の手引き」 小冊子

- I 一般的基礎編
- II 具体的取組編
- III 資料など

HP作成 →現在は公開終了（GP終了&統合の関係）

GP取組紹介、SSR紹介、研修会等報告

データ蓄積

視察・研修会などの報告はHPに(学内向け) →現在は教員会議で報告
支援記録などはファイルして施錠ロッカーに
(様式や整理方法は再考の余地あり→専属職員が必要…)



相談室Ⅰ & 保健室



相談室Ⅰ



カウンセリング中

相談室Ⅰへのルート



保健室



相談室Ⅰへの別ルート

相談室 2 & スタディ・サポート・ルーム



相談室 2



相談室 2 の使用状況掲示板



SSRの学習スペース



学習指導中

高専(=高等教育機関)における障害学生支援

「特別支援教育」(special support education) ← 中学校や高等学校

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。

→ その子の「得意」なところに着目し「得意」なところを伸ばし
それが「拠り所」となるようにするための教育 ≡ 「結果の保障」

「合理的配慮」(reasonable accommodation) ← 大学や高専

障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。

→ 修学上必要な変更と調整 = 「機会の保障」(≠ 「結果の保障」)

「合理的配慮(高専における障害学生支援)」 ≠ 「特別支援教育」

高専はこんな人におすすめ

- ◎ 数学や理科が得意、好き
- ◎ 将来はエンジニア(技術者)になりたい
- ◎ 教室で授業を受けられる(授業は1コマ90分!)
- ◎ 試験だけでなく課題やレポートに対応できる
- ◎ 自分の意思、希望で高専に進学したい

おわりに

支援体制構築の考え方

- ・ チームとして援助する環境・意識
- ・ 窓口は一本化
- ・ 保護者との連携
- ・ 教職員の理解促進
- ・ 無理なく継続できること